

[博士論文審査要旨]

申請者：李 佳蓉

論文題目：『CSR 活動における国有企業のステークホルダーエンゲージメントモデルの
構築：情報発信と活動参画の視点から』

審査員 佐々木将人

坪山雄樹

田中一弘

本論文は、中国国有企業が CSR 活動においてステークホルダーの関与を高めるためにどのような活動をしているのか、を明らかにすることである。特に本論文は、多くの国有企業の資本構造が国と民間のハイブリッドであることに着目し、ステークホルダーに対する CSR 活動についての情報発信や実践に対して資本構造の混在が与える影響を検討している点が特徴である。

本論文の主要な知見としては、3つ挙げられる。第1に、中国国有企業の CSR 活動は民間企業に比べて非常に多様な範囲を手掛けており、またそれに関与するステークホルダーの多様性も極めて高い。第2に、こうした広範な活動を手掛けることが出来ている背後には、企業内部にある共産党組織の活動が大きく貢献していること。特に国有企業の共産党組織の構成員は、民間企業と比べて、国家との関係も深く、影響力も大きいため、民間企業よりも幅広い非市場的な活動へ関与をしている。第3に、ステークホルダーとの関わり方に関しても、民間企業が主に私的利益と自社の正当性を確保することが目的であるのに対して、公的企業では私的利益と公的利益の両立を目的とした活動が展開されている。

本論文の強みは、CSR 活動とステークホルダーエンゲージメント、国有企業に関して非常に広範な文献調査を行い、リサーチクエスションの深掘り及びその理論的・実務的意義を導出している点にある。また、調査方法についても、CSR 報告書の内容分析に加え、中国企業の CSR マネジャー27人を対象としたインタビュー調査を実施しており、複数の視点からの理論化を試みている。特に、企業と外部のステークホルダーとの関係と、共産党組織のような企業の内部のステークホルダーとの関係の双方を同時に扱っていることで、興味深い議論が展開出来ている。

他方で、本論文には、多様な発見事実を整理するための統一的な理論的視座を導出することに関しては不十分な点があり、また定性的な調査手法のシステマティックさ

に関しても課題が残されている。しかし、このような問題は、筆者による今後の研究によって解消されるべきものであり、本論文の学術的価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。